

沖縄（おきなわ）の建築年表（けんちくねんぴょう）

ページ 1

西暦	琉球国王	年号 日本	年号 中国	記事	時代 日本	時代 中国
1187	舜天 1	文治 3	淳熙 1 4	舜天（しょうてん）、利勇（りゆう）を亡（ほろ）ぼし、初代（しよだい）琉球国王（りゅうきゆうこくおう）となる。はじめて都城（とじょう）を中山（なかやま）定（さだ）め、国殿（くにでん）を創建（そうけん）したという。	平安時代（へいあんじだい）	南宋（なんそう）
1260	英祖 1	文応 1	景定 1	英祖、王位に就く（英祖王統）。英祖はもともと伊祖城（いそそのいしくすく）を居城としたが、のちに浦添城（うらそえ）にうつった。	1192 鎌倉時代	南宋
1265	英祖 6	文永 1	咸淳 1	僧の禅鑑の来琉。英祖、浦添に極楽寺を創建する。琉球における仏教の始まりとされる（『琉球国由来記』）。	鎌倉時代	1271 元
1299	英祖 40	正安 1	大徳 3	英祖没し、浦添極楽寺（浦添ようどれ）に葬られる。	1336 南北朝時代	元
1350	察度 1	観応 1 正平 5	至正 1 0	察度、王位に就く（察度王統）。	南北朝時代	1368 明
1372	察度 2 3	応安 5 文中 1	洪武 5	明の太祖（洪武帝）が、行人の楊載を琉球に遣わし入貢を促す（詔諭）。察度、これに応じ王弟の泰期を明に派遣する。	南北朝時代	明
1392	察度 4 3	元中[?] 9	洪武 2 5	察度、数丈の高楼を建造、遊覧する。この年、明の太祖（洪武帝）より閩人 3 6 姓を賜る（のちの久米村士族）。	1392 室町時代	明
1406	尚思紹 1	応永 1 3	永楽 4	尚思紹、王位に就く（第 1 尚氏王統）	室町時代	明
1420	尚思紹 1 5	応永 27	永楽 1 8	このころ護佐丸、座喜味城を築城し、山田城より移るといふ。	室町時代	明
1427	尚巴志 6	応永 34	宣徳 2	沖縄最古の文字資料である石碑「安国山樹華木之記碑」が建立される。この時、龍潭が造成される。	室町時代	明

1428	尚巴志 7	正長 1	宣徳 3	中山門が創建される。	室町時代	明
1429	尚巴志 8	永享 1	宣徳 4	尚巴志が三山を統一する。	室町時代	明
1433	尚巴志 1 2	永享 5	宣徳 8	明の使者の柴山が、日本との交通を開くため来琉し、千仏霊閣を建てる。	室町時代	明
1440	尚忠 1	永享 1 2	正統 5	護佐丸、中城城を拡張し、外郭を造築する。	室町時代	明
1451	尚金福 2	宝徳 3	景泰 2	長虹堤がつくられる。天照大神を勧請し、長寿寺が創建される。この頃から、沖宮・末吉宮などが建立される。	室町時代	明
1450	尚泰久 1	享徳 3	景泰 5	志魯・布里の乱により首里城炎上する。	室町時代	明

ページ 2

1458	尚泰久 5	長禄 2	天順 2	首里城正殿に「万国津梁の鐘」がかけられる。	室町時代	明
1459	尚泰久 6	長禄 3	天順 3	このころ天界寺（臨濟宗）が創建されたとされる。	室町時代	明
1470	尚円 1	文明 2	成化 6	尚円、王位に就く（第 2 尚氏王統）。	室町時代	明
1475	尚円 6	文明 7	成化 1 1	尚円、崇元寺を創建する。このころ天王寺・龍福寺（もと極楽寺）が創建される。	室町時代	明
1492	尚真 1 6	明応 1	弘治 5	尚真、円覚寺の建立を指示し、3 年にしてなる。京都、南禅寺の芥隠を開山住持とする。	室町時代	明
1501	尚真 25	文亀 1	弘治 1 4	尚真、玉陵を築造する。	室町時代	明
1502	尚真 26	文亀 2	弘治 15	弁財天堂が建立される。弁財天堂に至る天女橋をかける。	室町時代	明
1519	尚真 43	永正 16	嘉靖 14	園比家武御嶽石門・弁ヶ嶽（弁之御嶽）石門が建立される。	室町時代	明
1522	尚真 46	大永 2	嘉靖 1	真玉橋がかけられる。	室町時代	明
1547	尚清 21	天文 16	嘉靖 26	大美御殿が建立される。このころまでに守礼門が建立される。	室町時代	明
1554	尚清 28	天文 23	嘉靖 33	三重城が築造される（那覇港北に位置し、南にはこれ以前に屋良座森城が築造されていた）。	室町時代	明

ページ 3

1609	尚寧 21	慶長 14	萬曆 37	島津氏（薩摩）の琉球出兵。今帰仁城が攻め落とされ、首里の弁財天堂などが破壊される。	1603 江戸時代	明
1620	尚寧 32	元和 6	萬曆 48	尚寧王没し、極楽山（浦添ようどれ）に葬られる。	江戸時代	明

1624	尚豊 4	寛永 1	天啓 4	山川陵(山川の玉陵)が建造される。	江戸時代	明
1639	尚豊 19	寛永 16	崇禎 12	中城御殿が創建される。	江戸時代	清
1660	尚質 13	万治 3	順治 17	首里城正殿が焼失する。	江戸時代	清
1661	尚質 14	寛文 1	順治 18	龍潭の北岸沿い道路に旧慈恩寺の橋を移設し、世持橋とする。	江戸時代	清
1671	尚質 3	寛永 11	康熙 10	首里城正殿が再建される。正殿、この時瓦葺きとなる。	江戸時代	清
1674	尚貞 6	延宝 2	康熙 13	久米村に至聖廟（孔子廟）が創建される。	江戸時代	清
1677	尚貞 9	延宝 5	康熙 16	東苑（御茶屋御殿）が建造される。金城橋が石橋となる。	江戸時代	清
1682	尚貞 14	天和 2	康熙 21	崇元寺が瓦葺きとなる。陶窯が壺屋に統合される（知花・首里宝口・湧田の各窯）。首里城正殿に五彩の龍頭ぼう（りゅうとうぼう）が置かれる。	江戸時代	清
1687	尚貞 19	貞享 4	康熙 26	伊是名玉陵が改修される。	江戸時代	清
1708	尚貞 40	宝永 5	康熙 47	真玉橋が石橋に改修される。	江戸時代	清
1709	尚貞 41	宝永 6	康熙 48	首里城正殿・南殿・北殿が火災により焼失。	江戸時代	清

ページ 4

1712	尚益 3	正徳 2	康熙 51	首里城正殿が再建される。	江戸時代	清
1713	尚敬 1	正徳 3	康熙 52	正義大夫の毛文哲・通事の蔡温等、首里城・崇元寺・玉陵の地理（風水）をみる。	江戸時代	清
1738	尚敬 26	元文 3	乾隆 3	玉陵は松林の中にあり、これを竹柵で囲う。	江戸時代	清
1748	尚敬 36	寛延 1	乾隆 13	はじめて御番所を玉陵の東西に建てる。	江戸時代	清
1799	尚温 5	寛政 10	嘉慶 3	識名之御殿（識名園）がつくられる。	江戸時代	清

ページ 5

1837	尚育 3	天保 8	道光 17	首里に孔子廟（「首里聖廟」）が創建される。	江戸時代	清
1846	尚徳 12	弘化 3	道光 26	首里城正殿が重修される（歓会・久慶・継世の各門に二重扉を設ける）。	江戸時代	清
1868	尚泰 21	明治 1	同治 7	地理師を清（中国）に派遣し、玉陵を修しゅう（しゅうしゅう）する方法を学習させる。これより玉陵の各所が修理される。	明治時代	清
1875	尚泰 28	明治 8	光緒 1	中城御殿が大中村へ移る。	明治時代	清
1879	尚泰 32	明治 12	光緒 5	明治政府の「琉球処分」により琉球藩（琉球藩は明治 5 年に設置される）	明治時代	清

			が廃され、沖縄県となる。		
--	--	--	--------------	--	--